

表面には必ず若干の粉芽体化した疣を生じ且つウスニン酸とデフラクタ酸を含有して居り一方で *Usnea ceratina* Ach. の様相を呈すると共に他方では *Usnea roseola* Vain. に連絡して居る。最近筆者は黒川道君の台湾及び東南亜細亜採集品を検定しつつある間に此兩種の区別を明瞭にする必要に迫られ検討を重ねた結果台湾並に日本に産する *Usnea ceratina* Ach. の一型かと疑問視された標本は何れも *ceratina* ではなく *roseola* に同定すべきものと決定した。それと同時に先に筆者が *Usnea creberrima* に充てた標本は全部 *Usnea roseola* の種々の型である事が判明し茲に之を訂正する次第である又 *Usnea roseola* の原記載は植物学雑誌第 35 巻第 45 頁 (大正 10 年 3 月発行) で Vainio が発表して居るが極めて簡単に現代の種の記載としては不完全であるので台湾産黒川 no. 1407 を基礎として詳細な記載を試みた。尚此機会にアジア産の標本の内から少くもヒマラヤ産 3 個、タイ国産 4 箇、ジャバ産 1 箇が *Usnea roseola* Vain. に同定され、本種がアジアに於ける *Usnea ceratina* Ach. の代償種と考えられるのである。

#### ○高等植物分布資料 (38) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (38)

○リンネソウ *Linnaea borealis* Linn. 周極地方に広く分布する本種は、日本の北海道から本州中部にまで達している。赤石、飛騨両山脈に生育していることは知られているが、木曾山脈は未知であった。1965 年 2 月、長野県飯田市の西郊約 25 km にある摺古木山 (海拔 2160 m)、及び松川上流御所平 (約 1600 m) で採集した標本を知った。摺古木山は分布の西南限と思われる。標本の一部は東大に入れてある。飯田風越高等学校及び伊藤文男氏に感謝します。 (飯田市山本中学校 浅野一男)

○イワウチワ *Shortia uniflora* (Maxim.) Maxim. 本州の東北・関東及び北陸から但馬山地にかけて生育している。分布を分つ因子として、年平均気温  $14^{\circ}\text{C}$  以下で年総降水量 1300—1400 mm 以上が必要なる条件であろうとされている。信濃、甲斐の大部分は本種を産しない。信濃では飛騨山脈および木曾山脈を南下し、恵那山が最南端であることが知られている。しかし、木曾山脈南部の生育地は詳らかでなかったので、近年わかった産地を報告する。飯田市松川上流小西沢、摺古木山、風越山、大平、上郷村姫宮、智里村富士見台、恵那山、浪合村尹良神社である。浪合村の産地は恵那山の東南 10 km ほどにあり、木曾山脈での南限と考えられる。 (浅野一男)

○キビナワシロイチゴ *Rubus Yoshinoi* Koidz. 九州から福島県まで点々と分布している本種は、雑種起源のものと考えられもするが、未だ確証はない。ナワシロイチゴに隣接して生えていたり、単独に群生したりするが、いわば珍品の仲間である。1964 年 5 月 30 日諏訪大社の社叢中の半陰地で採集した。(東京都立大学牧野標本館 水島正美)